

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	225 生活保護世帯扶助費等経費	会計	01	一般会計
		款	03	民生費
		項	01	社会福祉費
基本施策	07 老後の生活や低所得者の自立を支える	目	02	民生事業活動費
		細目	235	民生事業活動経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	生活保護世帯扶助費等経費
担当部課	コード	130100		担当者氏名
	名称	健康福祉部 厚生保護課		
		橋本浩三	連絡先	22 - 9650 (内線) 2610

### 事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	生活保護世帯	※対象件数
成果(どうする)	生活保護世帯に対して、見舞金等を支給する。	
根拠法令・要綱等	伊賀市健康福祉部関係補助金等交付要綱	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	生活保護世帯に、し尿汲取料補助金、夏季・歳末見舞金、小中学校入学準備金を支給。 ・行旅人移送費の支給	
社会情勢の変化等	平成20年度において、夏季・歳末見舞金、小中学校入学準備金は廃止。	

#### 整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

#### 運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

### 事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
し尿汲取料補助金		人	目標 550	目標 550	0	
			実績 389	実績 364		
夏季・歳末見舞金		延世帯	目標 0	目標 0	0	
			実績 0	実績 0		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
し尿汲み取り料補助金			人	目標 550	目標 550	0	0
				実績 389	実績 364		
				目標	目標		
				実績	実績		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計 (A)	909		909		84		84	
A の財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0		0				
一般財源	909		909		84		84	
事業投入人件費 (B)	0.1 人	720	0.1 人	720	0.1 人	720	0.1 人	720
フルコスト(A)+(B)	1,629		1,629		804		804	

### 事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を <b>100%</b> 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 <b>○</b> 【予算の繰越がある場合、繰越の種類】 <b>○</b>	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。全体コストにおける負担構成は適正である。コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

#### 昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	夏季・歳末見舞金、小中学校入学準備金は平成20年度に廃止。
昨年度の取組状況	【状況】 <b>計画のとおり進んでいる</b>
	【詳細】 し尿汲み取り補助金の平成22年度廃止

### 今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	橋本浩三
事業の方向性	【方向性】 <b>縮小</b>
	【理由】 行旅人移送費の支給のみ継続
現時点における課題、その他	特になし
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	